

外国人ママへの子育て応援団

NPO法人ヤマガタヤポニカ

1. 事業の目的

地域で子育てする外国人ママパパの子育てを日本語教育に特化して支援する。具体的な目標として日本語教室において外国人ママパパが日本語による子育ての語彙を学び、地域で子育てする仲間作りを目指す。日本語教室の前段階としてそれを支援するサポーターのための日本語サポーター養成講座を行う。

2. 事業内容の概要

山形県東根市教育委員会、子育て健康課、クリエイトひがしね、東根市さくらんぼ国際交流協会から後援を受け、東根市という地域を拠点として展開。(後援として公益財団法人山形県国際交流協会。)

日本語教室を開講する前に日本語サポーター(以下サポーターと表記)を養成する講座を開いた。募集対象は教室を開講する山形県東根市近郊に住んでいる子育て中の日本人ママパパとしたが、それに限定はしなかった。養成講座では日本語教育の基本的な知識や日本人サポーターの役割、地域における外国人事情などを学習し、レベル別のおしゃべり教材3種類を準備し、それらテキストの実践的な使い方を学んだ。

日本語教室の学習者(外国人)は子連れが予想されたため、午前中2時間とし、託児付きとした。全24回実施し、1回教室外学習(見学)を入れた。1週間に2回(火、金)実施し、火曜日は文化庁カリキュラム案に則って当会が新しく作成したテキストを学習した。このテキストは外国人ママパパが地域の中で遭遇すると思われる場面の会話を内容としている。火曜日は当会が指導するクラスレッスンとし、サポーターも参加し、クラスレッスンの指導を学んだ。

金曜日はサポーターと学習者がマンツーマンでおしゃべり型テキストを学習した。参加した外国人学習者は日本語でのコミュニケーションに問題がなかったこともあり、中級者レベルとして準備した当会制作の『子育て日本語』(2008)を使用した。このテキストで子どもとの会話を学習した。

3. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 【くらし&子育て 日本語教室】

(2) 使用した教材・リソース

I) クラスレッスン(火曜日) 文化庁カリキュラム案に則って当会で作成したテキスト

II) マンツーマンレッスン(金曜日) 『外国人ママのための子育て日本語』(ヤマガタヤポニカ 2008)

(3) 受講者の総数 8人 (出身・国籍別内訳 韓国 3人、中国 3人、台湾 1人、タイ 1人)

(4) 日本語教室の具体的内容

I) クラスレッスン 平成24年9月4日～12月13日 火曜日 10:00～12:00 (参加人数は日本語支援サポーターである日本人を含めて表示)

回数	取組のテーマ	授業概要
1	開校式、学習者レベルチェック	開校式にサクランボ国際交流協会会長が挨拶、その後全員が自己紹介、プリントに書き込んだ後、自己実現や将来のことなどを発表しあう。サポーター、学習者とも記録に記入。
2	文化庁カリキュラム案 第1課 健康	東根市報の健康のお知らせで子どもの健康を確認した後、母子手帳の生育欄を日本人サポーターとともに読み合いながら、わからない語彙を調べた。
3	文化庁カリキュラム案 第2課 医療	病気やけがの語彙、体の部位を確認してから病院での会話をサポーター、学習者がペアで練習し、発表。その後問診表の記入を学習した。
4	文化庁カリキュラム案 第3課 交通事故	日本で事故の経験の有無を聞いてから、事故を起こした際の会話練習をペアでした。事故の会話は被害者、加害者など様々なパターンで練習し、事故処理の流れも学習した。
5	文化庁カリキュラム案 第4課 地震と災害	東北大地震のときの事を全員に聞き、地震の際の携帯の伝言板の使用法を学習した。携帯のエリアメールで様々な災害を調べ、天気予報の警報、注意報の対応の違いを学んだ。
6	文化庁カリキュラム案 第5課 施設の利用	前回学習者から質問があった文法について学習してから、各人がよく利用する施設を発表し、情報交換する会話を練習した。最後は宿題であった施設の紹介を発表した。
7	文化庁カリキュラム案 第6課 就園と就学	子どもの幼稚園選びのポイントを聞いてから、東根市内の託児施設のパンフレットを見て、それぞれの料金や保育時間などの違いを表にまとめて発表した。自宅地図の書き方や新聞記事への意見は宿題にした。
8	文化庁カリキュラム案 第7課 学校と給食	給食とお弁当について聞いてから、東根市給食センターの献立を利用し、食品や栄養素についての語彙を学習した。その後よく作る料理のレシピを書き、紹介した。
9	文化庁カリキュラム案 第8課 地域社会に参加する	町内会の行事への参加の有無を聞き、近所の人との挨拶、町内会行事に参加するときの挨拶を標準語や方言で練習した。公民館のチラシで参加したい催しを選び、その理由を発表した。
10	文化庁カリキュラム案 第9課 ママ友を作る	ママ友の出会い、会話の内容など聞いてから、モデル会話を練習した。初めての会話、何度かで愛用になってからの会話など様々なバージョンで会話を作り発表した。
11	文化庁カリキュラム案 第10課 食事のマナー	日本の食事で戸惑った経験や外国人に聞いて、食事の語彙やテーブルのマナーを確認した。食事をごちそうになったときの会話の様々なバージョンをオリジナルで作成し発表した。
12	見 学	現地集合、地震や火事などの体験型施設なので、順次体験した。宿題で質問を書いてきてもらったので、最後に担当者に質問の時間を作ってもらい、回答をメモした。
13	閉講式、まとめ	見学のまとめプリントを書いてからそれを発表した。今までの各自の学習記録を見て、まとめのプリントを記入、その後発表した。(ビデオで撮影)

	取組のテーマ	授 業 概 要
1	「子育て日本語表現」 L1 何でも食べよう	前半は『日本語これだけ2』のL4をやったが、簡単だったので、『子育て表現』のL1をペアごと学習した。『始めに』の段階でおしゃべりが長くなってしまい、テキストを進めることができないペアが多かった。
2	「子育て日本語表現」 L4 がたづけなさい	テキストを『子育て表現』に統一、学習する課も統一した。指導者が何を学習するか教室の始めに話し、その後ペアになり学習した。最後に質問を受けて全体でシェアした。
3	「子育て日本語表現」 L7 お手伝いありがとう	全体で子どものお手伝いについて聞いて、その後ペアで学習した。全体の振り返りの質問を受けて指導者が説明した。
4	「子育て日本語表現」 L12 がんばったね	始めにどんな時にどんな言葉で子どもを褒めるかを聞いてから今日のタスクを提示し、ペアごとテキストに取り組み。
5	「子育て日本語表現」 L14 怪獣したの？	今回のペアと前回の学習の復習をして始めた。子どもの怪獣について話してからペアごとテキストを学習、最後に子どもが怪獣したときの会話を発表した。
6	「子育て日本語表現」 L3 車に気をつけて	前回の振り返りをペアでして、指導者が交通規則の話題に触れてから今日のタスクを提示した。ペアごとテキスト学習。前回学習者から質問のあった助詞についての文法指導も行った。
7	「子育て日本語表現」 L6 不審者を見たら	ペアごと前回の復習をして、不審者について意見交換した。その後ペアごとテキスト学習。最後にタスクである文型を使った文作を発表した。
8	「子育て日本語表現」 L8 もったいない	ペアごと復習し、『もったいない』と思うことを発表しあう。その後ペアごとテキスト学習、最後に会話発表。『ら』抜き言葉、可能形の形を全体で復習した。
9	「子育て日本語表現」 L11 けんかしたの？	子どもがけんかしたときの対応を聞きあい、ペアごと復習とテキストの学習、オリジナル会話を記入し、会話発表。
10	「子育て日本語表現」 L13 小さい子には優しくね	兄弟が小さいこの世話をするかどうかを全体に聞いて、ペアで前回の復習、テキスト学習をした。自由な設定でオリジナルの会話を作成してもらい、発表。
11	「子育て日本語表現」 L16 おなか痛い？	前回の復習では箸の使い方について離れているペアが多く、その後擬音語擬態語の話を指導者が前置し、ペアでテキスト学習した。最後にオリジナルな設定で子どもが痛がっているときの会話を作成し、発表。

(8) 目標の達成状況・成果

学習者は、就園前の子どもを連れて外国人ママで、また日本人サポーターも同年代の子どもを連れてママが主体で、教室の回を重ねるごとに教室外で、いっしょに遊んだり、家庭を訪問しあったりと、参加者全員の繋がりが密になっていった。

10月5日のサポーターのフォローアップ講座でサポーターの役割を確認し、教室としての枠組みを再構築してから、学習者の学びの姿勢が確立していった。回を重ねるごとに、学習者は会話練習や意見発表に積極的になり、自信を持つようになった。

後半になると学習者から日本語文法に関する質問が増えていった。語彙に関しては学習者、サポーターが共に辞書で調べ、サポーターも学習するという展開で進めた。文法面では指導者、補助者が指導するという進め方をした。このような学びの姿勢が確立したことで、個々の学習の目的が明確になっていった。

閉講式では、どれだけ自分の能力が伸びたか、自己評価をした。全員が会話力や漢字、書くということに自信がついたという日本語力の向上を実感する感想を書いた。この教室で日本人と対等に会話したり、意見交換したりという体験は初めてだった、とても役に立った、と評価した感想が多かった。そして日本人の仲間ができた喜びを全員が書いていた。

教室外活動では、在住外国人のスピーチコンテストに教室学習者が参加したり、東根市給食センターの試食会に参加したり、山形市防災センター見学したり、『学校と給食』を学んだ際に、各自のレシピを作ったところから、『インターナショナルクッキング』という子ども料理教室の第2回講師として参加したりと、活動が広がっていった。

最後に教室の思わぬ効用について述べたい。今回はほぼ全員が8ヶ月～4才までの乳幼児を連れてきた。東根市子育てサポートセンターから保育士を子どもの人数に合わせ斡旋してもらったが、保育担当者の顔ぶれが一定であったことで、一貫した保育体制をとってもらうことができた。就園前の集団保育の準備段階としての機能を果たしたようで、子どももまた仲良くなり、社会性の発達や言葉の発音が顕著に見られた。(教室終了後、保育士へのアンケートを取った。)同じ顔ぶれの保育士に保育してもらったことで、ママたちは安心して子どもを預けて学習に励むことができた。

ママたちもまたしばしの間子どもから離れ、自分のための学習の時間を持てたことで、子育てとはまた違う喜びを得たという感想を多くもらった。

4. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 『くらし&子育て日本語サポーター養成講座』

(2) 目的・目標

地域に住む外国人ママパパのための日本語教室の日本語サポーターを養成する。サポーターは教室の学習者と会話を重ねることで学習者の日本語力の向上を図る役割を担う。また共に地域に生きる仲間として学習者をバックアップする。

(3) 対象者 地域(東根市周辺)に住む日本人

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	取組のテーマ	授 業 概 要
1	平成 24 年 8 月 3 日 10:00～12:00	県内の外国人事情と日本語サポーターの役割	県内の外国人事情、日本語教室事情を理解し、日本語教育ボランティアではなく日本語サポーターが求められる役割を学ぶ。
2	平成 24 年 8 月 7 日 10:00～12:00	様々なテキストを見る	日本語教育の様々なテキストを概観し、学習者ニーズにあったテキストを選ぶ。テキストの有無やグループレッスン、個人レッスンの特徴を理解する。
3	平成 24 年 8 月 10 日 10:00～12:00	日本語文法と文型を見る	『日本語これだけ 1』を用い、日本語教育の文法や文型を理解する。
4	平成 24 年 8 月 21 日 10:00～12:00	『日本語これだけ 1 2』の使い方	初級テキストに該当するおしゃべり日本語教育教材を使い、授業のモデルを見て、実際にやってみる。
5	平成 24 年 8 月 24 日 10:00～12:00	『子育てで日本語表現』の使い方	中級テキストに該当する『子育てで日本語表現』のモデル授業を見て、実際にやってみる。
6	平成 24 年 8 月 28 日 10:00～12:00	やさしい日本語	外国人と会話するに当たっての留意点を理解し、日本人母語話者の会話を外国人にわかりやすくする話し方を学ぶ。
7	平成 24 年 10 月 5 日 10:00～12:00	フォローアップ講座 1	日本語教室 8 回を終えて、学習者情報をシェアし、課題や困難点の解決策を検討する。
8	平成 24 年 11 月 20 日 10:00～12:00	フォローアップ講座 2	日本語教育の文法を学習し、講座終了後に向けての取り組みを考える。

5. 事業に対する評価について

(1) 目標の達成状況・事業の成果

1. 子育て中の外国人ママの日本語力向上

毎回学習記録を記入し、それを元に、次の回で振り返り学習をした。この積み重ねで、学習者本人、サポーターともども学習の成果を確認できた。開講式で教室で学びたいことを記入し、開講式で、学習の自己評価をしてもらった。記録をファイルにして続けることは学習成果の確認として効果が大きかった。また、学習者がサポーターと会話を重ねることで、日本人特有の間の取り方、談話の仕方など自然に体得できたと思われる。当初は自分を主張することが強かった学習者が、次第に話を聞き、相づちを重ね、その上で自分の考えも言うというような談話構成をとるようになった。

2. 仲間作り

学習者、日本人サポーターともに参加者の主体が就園前の子どもを連れた母親であったことで、教室外活動が活発になり、それがつながりを強めた。

(1) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

外国人が地域で暮らす際に必須なことは日常の情報をどのようにして得られるか、わからないことを相談できる人がいるか、この2点に尽きる。鍵となるのは副教材、リソースの収集である。その副教材を集める過程で、指導者側のテキストに対する理解、地域の学習者が求めるニーズが見えてくる。日本人ママが欲する情報は、外国人ママも欲している。そのことに気付けば、外国人ママにとって必要な指導は見えてくる。したがって、もう一つの鍵は日本人ママの視点ということになる。

(2) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業では東根市教育委員会、子育て健康課という東根市役所の2つの部署から後援をもらうことができた。後援を受けたことで、この事業は地域の中で認知してもらうことができた。施設費の軽減措置も受けることができた。また、NPO法人クリエイティブがしねからは事業運営に関しての適切なアドバイスをもらうことができた。

(3) 改善点、今後の課題について

今後の課題は広報である。今回の事業に関係した学習者、日本語サポーター、保育者、運営委員からは大きな評価をもらうことができた。当会としても目標とする事業を完遂できた達成感を持っている。ただ、今回教室の対象となった外国人子育てママにどのように事業を周知し、参加してもらうかを考えると、効果的な募集方法が見つからない。結果的に口コミが一番有効であったことは、募集方法の再考を促している。



1992年12月25日

[illegible]

6. 2010年10月1日起，凡在中华人民共和国境内销售货物或者提供加工、修理修配劳务以及进口货物的单位和个人，均应按照《中华人民共和国增值税暂行条例》及实施细则缴纳增值税。

- [illegible]

[illegible][illegible][illegible]

4. 日本製造者責任法施行規則第20條之2

- (2) 目的・目標
地域に在る外国人マザーズのための日本語教室の日本語サポーターを養成する。サポーターは教室の学習者と来訪者に対して、また、来訪者と地域に在る仲間として、学習者をバックアップする。
- (3) 対象者 地域に在る外国人に在る日本人。

期	期日	開催内容
第1期	平成24年4月10日 10:00~12:00	海外の法人税と日本法人税の比較 → 日本法人税の基礎
第2期	平成24年4月24日 10:00~12:00	海外法人税の基礎 → 日本法人税の基礎
第3期	平成24年5月8日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第4期	平成24年5月22日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第5期	平成24年6月5日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第6期	平成24年6月19日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第7期	平成24年7月3日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第8期	平成24年7月17日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎
第9期	平成24年7月31日 10:00~12:00	日本法人税の基礎と日本法人税の基礎

● 業績に対する人望値に24%

7. 手塚で中韓の友人たちの日本語力向上
 日本語学習者として、それと共に、次の国で振り返り学習をした。この積み重ねで、学習者本人、サポーターともども学習の成果を体験できた。開講式で教室で学びたいと希望した人、開講式で、学習の自己評価をしてみてもった。記録をファイルにして観ることは学習成果の確認として効果が大きかった。
 また、学習者がサポーターと役割を兼ねることで、日本人特有の慣習の教育、該談の仕方など自然に体験できたと思われる。当初は自分自身を指導することが難しかった学習者、次第に目を開き、伸びる姿を、その上で自分の考えを言うという話題履修者となるようになった。

背景、日本人サポーターともに参加者の主体が訪問者の子どもを運んだ母親であったことで、教室活動が遂行になり、それがつながらず継続した。経済的にかつ量的に富の地域での活用について、地域で暮らしながら必要なのは日本の情報をどのようにして得られるか、わからないことを相談できる人がいるか、この点に依る。これは影響が、リソースの広さである。その教材を集める過程で、指導例のテキストに対する理解、地域の学習者が求めるニーズが見えてくる。それが重要なのは、外国人ママも持っている、その点に気付けば、外国人ママにとって必要な情報は見えてくる。したがって、もう一つの鍵は日本人ママの援助にあるのである。

地域の関係者との連携による効果、授業、指導例の提供や教育委員会、子育て支援課という行政の役所の2つの部署から支援をもらうことができた。後援を受けたことで、この事業は地域の中で認知していった。助成費の経理運用もこのことでできた。また、NPO法人クリエイトのおかげからは事業運営に關しての適切なアドバイスももらうことができた。

今後の課題について

今後、今回の事業に關連した学習者、日本語サポーター、保護者、運営委員からは大きな評価をもらうことができた。改善として目標とする事業が実現したとして外国人子育てママなどのように事業を認知し、参加してもらおうと考えると、効果的な集客方法が見つからない。結果的に口頭が一つの重要な手段を要している。



A photograph showing a person's hand holding a pen, writing on a piece of paper. The paper has Japanese text and a small illustration of a person. The background shows a desk with other papers and a book.